

あじけん流日本語授業

～災害について学ぼう～

今月のあじけん流日本語授業は、「災害」に関する授業です。近年、日本でも災害が増え、実習生が母国では経験したことのない「災害」に遭遇することも珍しくなくなりました。そこで、まずは「知ること」が大切と考え、当校では、災害に関する授業を取り入れるようにしています。

授業では、まず、講習で学んだ、「火事」のとき、「しなければいけないこと」「してはいけないこと」について確認します。そのあと、それぞれの実習先がどこで、その地区には何があるか、インターネット上の地図を使って見てみます(写真①)。山や川、海が近い、建物が多い地区などを確認し、川の近くでは「洪水」、海の近くでは「津波」、日本全国では「地震」の可能性のあることを講師から説明しました。

次に、別々の国の実習生がグループになり、その災害時に「しなければならぬこと」「してはいけないこと」を話し合います(写真②)。テーマは、「洪水」「津波」「地震」「台風」と、災害ではないのですが、「熱中症」の5つで、それぞれのグループに一つテーマを与えます。「しなければならぬこと」「してはいけないこと」を話し合い、絵に描いて(写真③)、発表します(写真④)。この時に初めてその災害について知るとい実習生も多くいます。

発表時には国別の「してはいけないこと」「しなければならぬこと」を発表し、他の実習生から質問を受けます(写真⑤)。最後に講師から「災害」を知ることが、実習を無事に完了するためにも大切なこと、自分自身でも日本語を理解しながら気を付けるようアドバイスしました。

これからも実習生にとって役に立つ授業を考えていきたいと思ひます。



写真1：実習先を地図で確認



写真2：グループでの話し合い



写真3：発表ポスター

フィリピンでは、こうずいとき、あんぜんなところへ いかなければなりません。



写真4：それぞれの国の災害時の対応を発表

つなみのとき、どこへ いったらいいですか。



たかいところへ いきます。

写真5：クラスメートからの質問もあります